

で、抜けているものがあるのではと思われる)。

摩耶山を原産地として比較的话题に出る甲虫としては、エグリゴミムシ、マヤサンオサムシ、ヤマトエンマコガネ、キョウトアオハナムグリ、チビマルヒゲナガハナノミ、ワダカミキリモドキ、マヤサンコブヤハズカミキリなどがある。

中でもヤマトエンマコガネが摩耶山麓に多産するといった記録がある(Waterhouse,1875)、実に面白い記録であり、現在とは全く違っていた環境のもとでは、たくさんいたのであろうと思われるが、この種は現在の日本でははっきりとした産地がわかっていない種で、世の移り変わりでないなくなってきた虫の代表的なものである。

戦前、摩耶山でオオチャイロハナムグリが採集されたとかされていないとか、話題になったコガネムシであるが、戦後の記録もあつたりする。おそらく摩耶山の前面の未開地には棲息していると考えられる。本種は県下では氷の山、扇の山方面ではわりと見られる種である。

摩耶山は神戸市内にある山だし、頂上まで歩いて登るのに適当なところということで、わりと採集に出掛けたものである。東隣の六甲山がどちらかといえば頂上等がやや早く遊園地のようなのであまり採集などには条件が良い場所ではなかった。六甲山の場合は頂上から紅葉谷を経て有馬へ下りる道とか、逆に神戸電鉄駅から六甲山の頂上に向かって行くとか、さらには六甲山の北背面地域の方が採集には面白いものがいたように思う(例えば逢山峡から六甲山山に行くなどは面白かった)。

どちらかといえば、摩耶山とか六甲山などは戦前とか終戦後すぐの頃には行くことが多かった山である。六甲山上にツヤスジコガネを多産していたり、八代池付近の樹に無数のヒゲナガビロウドコガネに出会ったことなど、印象に残っている。六甲山ホテルへ採集姿で昼食を食べに行ったら、上着を着用して下さい、なんならお貸しいたしましょうかといわれて面食らったり、仲秋の名月を見ようと六甲山ハウスのジンギスカン鍋を食べに行つてあまりの涼しさに早々に下山したこと、六甲山上に夏季出来るテント村に室井 緯博士と一泊夜間採集に行つた思い出(戦前)、結構採集には行っている山である(摩耶山の甲虫については私の報文を参照して頂きたい。鳥と自然 No.38:12-18,1986)。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町 1-44)

今年も越冬していたウラナミシジミ 広畑 政巳

本種は夏から秋にかけては兵庫県下でも普通に見られるが、春から夏にかけての最終目撃記録は報告されていない。本州における本種の越冬地は房総半島・三浦半島・紀伊半島の南端が知られており、そこで越冬した個体が世代を繰り返しながら北方へ分布を拡大すると言われている。夏から秋にかけて県下各地で見られる個体はどこで越冬し、どのように分布を拡大してきたのか今のところ判っていない。

淡路島における越冬の記録は 1979 年 2 月 11 日に淡路島の南淡町大川で、1985 年 1 月 13 日に南淡町土生と洲本市中津川で確認されている(広畑,1980,1987)。しかし、その後の分布の経過は調査をしていないので判明していない。

今年(1999 年) 1 月 24 日の南淡町大川の調査でエンドウより終令幼虫 2 頭を確認しているので報告しておく。いつも越冬後の分布調査をと思いながら、春から夏にかけての調査ができず、どのように分布が広がっていくのか興味あるところである。淡路島での春から夏にかけての分布の調査を期待するところでもあり、また採集記録をご教示いただければ幸いです。

<参考文献>

- (1) 広畑政巳(1980) 兵庫県南淡町に於けるウラナミシジミの越冬と温度について Parnassius (22): 1-4.
- (2) 広畑政巳(1987) ウラナミシジミの越冬について 蝶研フィールド 2(3):17-18.

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台 3-11-8)